

注3

大学番号：私136

[平成22年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

ヤマザキ学園大学

注2

【認可】改善意見等対応状況報告書

学校法人 ヤマザキ学園
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課） 大学事務局渋谷キャンパス事務部

職名・氏名 フチョウ スダ エイジ
部長 須田 栄二

電話番号 03-3468-1100

（夜間） 03-3468-1100

F A X 03-3466-5885

e-mail keieikikaku@yamazaki.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部(平成◇◇年度より変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

動物看護学部

<動物看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 留意事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 ヤマザキ学園

(2) 大学名

ヤマザキ学園大学

(3) 大学の位置

〒192-0364 (本部)
東京都八王子市南大沢4-7-2
〒150-0046
東京都渋谷区松濤2-3-10

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成6年6月)		
学長	(ナカムラ ツネノリ) 中村 経紀 (平成22年4月)	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成25年4月)	体調不良による辞任に伴う変更 平成25年4月1日 (25)
副学長	(ヤマザキ カオル) 山崎 薫 (平成22年4月)	(セキ マサカツ) 関 正勝 (平成26年4月)	学長就任に伴う変更 後任を置かないこととする 平成25年4月1日 (25) 教員組織の検証を行い、副学長の後任を置くこととした 平成26年4月1日 (26)
学部長	(ワカオ ヨシト) 若尾 義人 (平成22年4月)		
副学部長		(ニノミヤ ヒロヨシ) 二宮 博義 (平成26年4月) (オガタ ムネツグ) 小方 宗次 (平成27年4月)	さらなる学修環境向上のため、 教員組織の検証を行い、副学部長を置くこととした 平成26年4月1日 (26) 前任者退任に伴う変更 平成27年4月1日 (27)
学科長	(ニノミヤ ヒロヨシ) 二宮 博義 (平成22年4月)	(アマノ タカシ) 天野 卓 (平成26年4月)	前任者の副学部長就任に伴う変更 平成26年4月1日 (26)
副学科長		(オカザキ トシオ) 岡崎 登志夫 (平成26年4月)	さらなる学修環境向上のため、 教員組織の検証を行い、副学科長を置くこととした 平成26年4月1日 (26) 学科長が業務に習熟したため 後任を置かないこととする 平成27年4月1日 (27)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)
平成27年度に報告する内容 → (27)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
動物看護学部 動物看護学科 学士(動物看護学)	4年	180人	0人	720人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	180人 (-) [-]	-	180人 (-) [-]	-	180人 (-) [-]	-	180人 (-) [-]	-	180人 (-) [-]	-	180人 (-) [-]	-	1.04倍	1.03倍	
志願者数	243 (-) [-]	-	247 (-) [-]	-	278 (2) (-) [-]	-	264 (-) (-) [-]	-	308 (-) (-) [-]	-	293 (1) (-) [-]	-			
受験者数	240 (-) [-]	-	238 (-) [-]	-	265 (2) (-) [-]	-	256 (-) (-) [-]	-	301 (-) (-) [-]	-	280 (1) (-) [-]	-			
合格者数	230 (-) [-]	-	238 (-) [-]	-	255 (2) (-) [-]	-	255 (-) (-) [-]	-	294 (-) (-) [-]	-	275 (1) (-) [-]	-			
B 入学者数	182 (-) [-]	-	184 (-) [-]	-	200 (2) (-) [-]	-	195 (-) (-) [-]	-	183 (-) (-) [-]	-	173 (1) (-) [-]	-			
入学定員超過率 B/A	1.01		1.02		1.11		1.08		1.01		0.96				

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		備 考
	平成24年度		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] (-) 200	[-] (-) -	[-] (-) 195	[-] (-) -	[-] (-) 183	[-] (-) -	[-] (-) 174	[-] (-) -	
2年次	[-] (-) 175	[-] (-) -	[-] (-) 193	[-] (-) -	[-] (-) 190	[-] (-) -	[-] (-) 177	[-] (-) -	
3年次	[-] (-) 164	[-] (-) -	[-] (-) 169	[-] (-) -	[-] (-) 184	[-] (-) -	[-] (-) 185	[-] (-) -	
4年次	/		[-] (-) 160	[-] (-) -	[-] (3) 167	[-] (-) -	[-] (6) 189	[-] (-) -	
計			[-] (-) 539	[-] (-) 717	[-] (3) 724	[-] (6) 725			

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成24年度 入学者	200 人	18 人	平成24年度	8 人	0 人	・一身上の都合(3人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(4人)・除籍(1人)	9.0 %
			平成25年度	8 人	0 人	・一身上の都合(1人)・経済的理由(1人)・修学意欲の低下(1人)・進路変更(1人)・進路変更及び学習意欲の低下(1人)・進路変更(就職)(1人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(1人)・除籍(1人)	
			平成26年度	2 人	0 人	・学習意欲の低下(1名)・進路変更(1名)	
			平成27年度	0 人	0 人		
平成25年度 入学者	195 人	10 人	平成25年度	5 人	0 人	・一身上の都合(1人)・家庭の事情(1人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(1人)・体調不良(1人)・除籍(1人)	5.1 %
			平成26年度	5 人	0 人	・経済的理由(1人)・学習意欲の低下及び経済的理由(1人)・進路変更(就職)(1人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(1人)・除籍(1人)	
			平成27年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	183 人	5 人	平成26年度	5 人	0 人	・一身上の都合(3人)・進路変更(他の教育機関への入学・転学・編入学)(2人)	2.7 %
			平成27年度	0 人	0 人		
平成27年度 入学者	173 人	0 人	平成27年度	0 人	0 人		0 %
合 計	751 人	33 人					4.4 %

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<動物看護学部 動物看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文と社会	生活と哲学	2・3前		2		0 +					兼 1 専任教員(教授)退職により、担当を兼任講師に変更(26) 担当 関 正勝(兼任講師) (26)	
	生活と法律 生命倫理学	1前 2・3後	2	2		0 +					兼 1 専任教員(教授)退職により、担当を兼任講師に変更(26) 担当 関 正勝(兼任講師) (26)	
	芸術と表現 文学と人間	2・3前 2・3後		2 2		1 +	0 +				兼 1 担当 島森 尚子(教授) 職位昇格 (27)	
	心理学入門	2・3前		2		0 +					兼 1 専任教員(教授)退職により、後任者として兼任講師を採用(27) 担当 加藤 理絵(兼任講師)	
	生活と経済 生活と社会 動物とジャーナリズム	1前 2・3後 1後		2 2 2				1			兼 1 新規開講科目(26) 担当 仁科 邦男(兼任講師) (26)	
	キャリアマネジメント入門	2後		2					0 +		兼 1 専任教員(助教)退職により、後任者として兼任講師を採用(27) 担当 原島 恒雄(兼任講師)	
	キャリアマネジメント演習	3前		1					0 +		兼 1 専任教員(助教)退職により、後任者として兼任講師を採用(27) 担当 原島 恒雄(兼任講師)	
	自然と環境	自然科学	1前		2		0 +	1				0 兼 1 専任教員(准教授)就任辞退により、担当を兼任講師に変更(26) 担当 石川 牧子(兼任講師) (26) 担当者が平成26年度後期から専任教員(准教授)として就任したため(27) 担当 石川 牧子(准教授)
		環境科学	2後		2		0 +	1				専任教員(准教授)就任辞退 「後任未定」平成26年度後期授業開始前に専任教員採用予定(26) 前任者後任として、平成26年度授業開始前に専任教員(准教授)を採用(27) 担当 石川 牧子(准教授)
		基礎生物学	1後		2		0 +		1			専任教員(教授)就任辞退により、担当を専任教員(教授)に変更(22) 担当 鎌田 壽彦(教授) 平成21年1月 AC教員審査済 判定 可(22) 教員負担軽減のため、担当を新規採用の専任教員(講師)に変更(26) 担当 茂木 千恵(講師) 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可(26)
		基礎化学	1後		2		0 +	1				専任教員(准教授)就任辞退 「後任未定」平成26年度後期授業開始前に専任教員採用予定(26) 前任者後任として、平成26年度授業開始前に専任教員(准教授)を採用(27) 担当 石川 牧子(准教授)
		基礎生化学	1後		2		1					専任教員(教授)退職により、担当を変更(26) 担当 小黒 美枝子(教授) (26)
		イングリッシュスキルズ(基礎)A~H	1前	2			1 +	0 +	1	0 +		兼 1 教育課程の充実を図るため科目名を変更(26) 担当 島森 尚子(教授) 職位昇格 担当 大橋 由紀子(講師) 職位昇格 (27)
		イングリッシュスキルズ(応用)A~H	1後	2			+	0 +	1	0 +		兼 1 教育課程の充実を図るため科目名を変更(26) 担当 島森 尚子(教授) 職位昇格 担当 大橋 由紀子(講師) 職位昇格 (27)
言語・情報・スポーツ												

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 教 育 科 目	フランス語入門	1後		2							兼 2 教育効果を高めるため、兼任講師を追加 (26) 担当 白川 理恵 (兼任講師) (26)	
	情報リテラシ (基礎) 情報リテラシ (応用) 文章作法入門	1前 1後 2前	1 1	2				1 1		0 4	兼 1 専任教員 (助教) 退職により、後任者と して兼任講師を採用 (27) 担当 原 恵子 (兼任講師)	
	健康とスポーツ	2前		2							兼 1 兼任講師就任辞退により科目担当者を変 更 (25) 担当 中山 多美 (兼任講師) (25)	
	健康とスポーツ実技	3前後		1							兼 1 兼任講師就任辞退により科目担当者を変 更 (25) 前期担当 中山 多美 (兼任講師) (25) 後期担当 足立 晃子 (兼任講師) (25) 兼任講師退任により科目担当者を変更 (26) 前期・後期担当 中山 多美 (兼任講 師) (26)	
専 門 教 育 科 目	生命科学概論	1前	2			2 4					専任教員 (教授) 就任辞退により、担当 を専任教員 (教授) に変更 (22) 担当 鎌田壽彦 (教授) 平成21年1月 AC教員審査済 判定 可 (22) 教育効果を高めるため、専任教員 (教 授) を追加 (27) 担当 安藤 元一 (教授)	
	動物看護学概論 動物形態学	1後 1前	2 2			1 1 3 4					教育効果を高めるため、新規採用の専任 教員 (教授) 2名を追加 (26) 担当 林 一彦 (教授) 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可 (26) 担当 今村 伸一郎 (教授) 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可 (26)	
	動物生理学	2前	2			1					専任教員 (教授) の退職及び科目内容変 更のため、担当者を1名に変更 (27) 担当 今村 伸一郎 (教授)	
	解剖生理学実習	2後	1			1 2			4	兼 1	兼任講師就任辞退により科目担当者を変 更 (24) 担当 須藤 大輔 (兼任講師) (24) 兼任講師就任辞退により科目担当者を変 更 (25) 担当 高柳 信子 (兼任講師) (25) 教育効果を高めるため、専任教員 (教 授) 2名を追加 (26) 担当 今村 伸一郎 (教授) 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可 (26) 担当 二宮 博義 (教授) (26) 兼任講師 1名退任 担当 杉浦 陽介 (26) 専任教員 (教授) 退職のため (27)	
	動物生化学 動物薬理学	2前 2前 2後	2 2			1 1					兼 1	教育効果を高めるため、開講時期を後期 から前期へ変更 (23) 教育効果を高めるため、新規採用の専任 教員 (教授) を追加 (27) 担当 富田 幸子 (教授)
	動物生態学	2後	2			4		1				教員負担軽減のため、担当を新規採用の 専任教員 (講師) に変更 (26) 担当 茂木 千恵 (講師) 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可 (26)

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門基礎科目	動物行動学	2前	2			0 4		1			専任教員（教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（23） 担当 田中智夫（兼任講師）（23） 教育効果を高めるため、担当を新規採用の専任教員（講師）に変更（26） 担当 茂木 千恵（講師） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
		動物遺伝学	2後	2			1 0 4					0 兼+ 専任教員（教授）就任辞退により、担当を兼任講師に変更（22） 担当 東條英昭（兼任講師） 兼任講師就任辞退により、科目担当者を 変更（24） 担当 寺内聖治（兼任講師） （24） 兼任講師退任のため、担当を専任教員 （教授）に変更（27） 担当 天野 卓（教授）
		病理学	2後	2			1 2 4					教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 教育効果を高めるため、より専門性の高い専任教員（教授）を採用（27） 担当 富田 幸子（教授）
		動物人間関係学	2後 2番	2								兼1 教育効果を高めるため、開講時期を前期から後期へ変更（23）
		サイエンスイングリッシュ	3前	2			1					
専門教育科目	専門応用科目 動物看護学科目群	動物臨床看護学（基礎）	1前	2			2 4	0 4				担当 小方 宗次（教授）職位昇格のため（26） 授業運営上の理由により、担当を変更 担当 花田 道子（准教授） （26） 担当 花田 道子（教授）職位昇格 （27）
		動物臨床看護学（基礎）実習	1通	2			2 4	1	1 2 4	1	4	0 兼+ 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員（講師）として新規採用（23） 担当 花田 道子（講師） 平成23年1月 AC教員審査済 判定 可（23） 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加（25） 担当 尾崎 明恵（兼任講師） （25） 教員組織の編成のため、専任教員（教授）と専任教員（助教）1名を交代 （26） 担当 鈴木 友子（助教） （26） 教育課程の充実を図るため、専任教員（助教）を採用し、兼任講師と担当交代 担当 小山田 洋子（助教）
		動物臨床看護学（内科）	2前	2			3 2					専任教員（教授）退職により、担当変更 担当 小方 宗次（教授） （26） 教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加（27） 担当 富田 幸子（教授）
		動物臨床看護学（内科）実習	2通	2			3 4 2	0 4	1	0 4	4	専任教員（教授）退職により、担当変更 担当 花田 道子（准教授） （26） 教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加 担当 富田 幸子（教授） 担当 花田 道子（教授）職位昇格 担当 鈴木 友子（講師）職位昇格 （27）

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 動物看護学 動物臨床検査学 動物臨床検査学実習 動物医療機器 動物歯科学 動物歯科学実習 ヒトと動物の共通感染症 動物公衆衛生学	動物臨床看護学（外科）	3前	2			1 ↓	1 ↓	0 ↓				専任教員（教授）の学部長業務増加による負担軽減のため、専任教員（准教授）を新規採用し、担当変更（25） 担当 武藤 真（准教授） 平成25年1月 AC教員審査済 判定 可（25） 担当 武藤 真（教授）職位昇格のため（26） 担当 本田 三緒子（准教授）職位昇格（27）	
	動物臨床看護学（外科）実習	3通	2			1 ↓	1 ↓	0 ↓		4	兼1	専任教員（教授）の学部長業務増加による負担軽減のため、専任教員（准教授）を新規採用し、担当変更（25） 担当 武藤 真（准教授） 平成25年1月 AC教員審査済 判定 可（25） 担当 武藤 真（教授）職位昇格のため（26） 担当 本田 三緒子（准教授）職位昇格（27）	
	動物臨床看護学（総合）	4前		2		2				1		兼1	専任教員（教授）退職により担当変更 担当 小方 宗次（教授）（26） 教育課程の充実を図るため、新規専任教員（助教）を追加（27） 担当 小山田 洋子（助教）
	動物臨床看護学（総合）実習	4前		1		2 ↓				1	4	兼1	専任教員（教授）退職により担当変更 担当 小方 宗次（教授）（26） 教育課程の充実を図るため、新規専任教員（助教）を追加（27） 担当 小山田 洋子（助教）
	動物臨床検査学	3前	2			1				1		兼0 ↑	教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に担当変更（27） 担当 宮井 紗弥香（助教）
	動物臨床検査学実習	3通	2			1				2 ↓	4	兼0 ↑	教育効果を高めるため、兼任講師から新規採用の専任教員（助教）に変更（26） 担当 宮井 紗弥香（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 教育課程の充実を図るため、兼任講師から新規専任教員（助教）に担当変更（27） 担当 小山田 洋子（助教）
	動物医療機器	2後	2				1	1		0 ↓			担当 本田 三緒子（准教授）職位昇格 担当 鈴木 友子（講師）職位昇格（27）
	動物歯科学	3前		2		1							新規開講科目及び専任教員（教授）新規採用（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	動物歯科学実習	3後		1		1					4		新規開講科目及び専任教員（教授）新規採用（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）
	ヒトと動物の共通感染症	3後	2			1 ↓			1	0 ↓			教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田 明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23） 専任教員（教授）1名の就任辞退により新規採用1名（24） 担当 内田 明彦（教授） 平成23年7月 AC教員審査済 判定 可（24） 担当 鈴木 友子（講師）職位昇格（27）
	動物公衆衛生学	2前	2				1		0 ↓				担当 本田 三緒子（准教授）職位昇格（27）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	動物看護学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学	微生物学	3前	2		0 2 4					兼1	<p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田 明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23）</p> <p>専任教員（教授）就任辞退および専任教員（教授）判定不可により担当を兼任講師に変更（24） 担当 池田 純子（兼任講師）（24）</p>	
		血液学	3後	2		1							
		寄生虫学	3前	2			1 2 4						<p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23）</p> <p>専任教員（教授）1名の就任辞退により新規採用1名（24） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 AC教員審査済 判定 可（24）</p>
		小動物放射線学	3後	2			1						
		動物臨床繁殖学	3後	2			0 4					兼1	<p>専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 川上 静夫（兼任講師）（26）</p>
		小動物栄養学	3前	2			0 4					兼1	<p>教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加（25） 担当 大島誠之助（兼任講師）（25）</p> <p>専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 大島誠之助（兼任講師）（26）</p>
		小動物臨床栄養学	3後	2			0 4					兼1	<p>教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加（25） 担当 大島誠之助（兼任講師）（25）</p> <p>専任教員（教授）退職により、担当を兼任講師に変更（26） 担当 大島誠之助（兼任講師）（26）</p>
		リハビリテーション論	3前	2								兼1	<p>兼任講師退任により、新規兼任講師を採用（27） 担当 吉井 智晴（兼任講師）</p>
		動物リハビリテーション 動物病院実習	4前 3前後	2 1			2 4	1	0 4 2 4	0 4		兼1	<p>教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員（講師）1名を追加（23） 担当 花田道子（講師） 平成23年1月 AC教員審査済 判定 可（23）</p> <p>教育効果を高めるため、専任教員（講師）から専任教員（教授）へ交代（26） 担当 今村 伸一郎（教授）（26）</p> <p>専任教員（教授）退職のため 担当 花田 道子（教授）職位昇格 担当 川添 敏弘（准教授）職位昇格（27）</p>
		専門教育科目	動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学 動物臨床学	コンパニオンアニマルケア（グルーミング）論	1前	2					1		兼1
コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習	1前後			1					1	4	兼1	<p>教育効果を高めるため、兼任講師1名を専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）</p>	
コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習	2前後			1					1	4		<p>教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）</p>	
コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習	4前 4後			1					1	4		<p>教育課程の充実を図るため、開講時期を追加（25）</p> <p>教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）</p>	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	動物応用科目群	イヌの特性論	3前	2			1			1		教育効果を高めるため、兼任講師から専任教員（助教）に変更（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26）	
		イヌの行動学	4前		2					1	0 +	担当 堀井 隆行（講師）職位昇格 （27）	
		イヌの行動学演習	4後		1					1	0 +	担当 堀井 隆行（講師）職位昇格 （27）	
		コンパニオンドッグトレーニング ジェロントロジーとドッグウォーキング	4後 3後		2 2							兼1 兼2 新規開講科目（26） 担当 岡 浩一朗（兼任講師） 担当 山羽 教文（兼任講師） （26）	
		ネコの特性論	4前		2							兼1	
		コンパニオンバードの特性論	4前		2		1	0 +				兼1 担当 島森 尚子（教授）職位昇格 （27）	
		保全生物学	4前		2		2 +					専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野 卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23） 教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加（27） 担当 安藤 元一（教授）	
		実験動物学	4後		2		1 2 +					教育効果を高めるため、新規採用の専任教員（教授）を追加（26） 担当 今村 伸一郎（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 専任教員（教授）退職のため（27）	
		産業動物学	4前		2		1					専任教員（教授）退職のため、担当の変更（26） 担当 鎌田 壽彦（教授）（26）	
		野生動物学	4後		2		1					専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野 卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23） 授業運営上の理由により、担当を変更（27） 担当 安藤 元一（教授）（27）	
		生物統計学	4前		2		1					専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野 卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23）	
		バイオテクノロジー 動物愛護と関連法規の歴史	4後 3後	2			1	0 +				兼1 担当 會田 保彦（教授）職位昇格のため（26）	
		社会調査法 動物災害・危機管理	3後 4後		2 2		1	1 0 +				担当 會田 保彦（教授）職位昇格のため（26）	
		ペットビジネスマネジメント	4後		2					0 +		兼1 専任教員（助教）退職のため（27）	
		専門教育科目	動物介在福祉科目群	社会福祉論	3前		2						兼1
				障害者福祉論	3後		2		0 +	1	0 +		兼0 兼+ 専任教員（准教授）退職により担当変更（26） 担当 山川 伊津子（助教） （26） 教育効果を高めるため兼任講師を追加（26） 担当 濱田 清吉（兼任講師） （26） 兼任講師退任のため 担当 山川 伊津子（講師）職位昇格 （27）
児童福祉論	3後				2						兼1 兼任講師就任辞退により、科目担当者を 変更（25） 担当 宮武 正明（兼任講師） （25）		
臨床心理学	3前				2		0 +					兼1 専任教員（教授）退職 兼任講師として採用（27） 担当 小倉 啓子（兼任講師）（27）	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	動物介在福祉科目群	障害者心理ケア論	4前	2				1				兼1 専任教員(教授)退職 兼任講師として採用(27) 担当 小倉 啓子(兼任講師)(27) 科目名を変更(26) 兼1 専任教員(教授)退職および兼任講師退任のため、新規兼任講師を採用 担当 加藤 理絵(兼任講師) 授業運営上の理由により、開講時期を変更(27) 担当 山川 伊津子(講師) 職位昇格(27) 担当 會田 保彦(教授) 職位昇格のため(26) 兼1 担当 川添 敏弘(准教授) 職位昇格(27) 担当 川添 敏弘(准教授) 職位昇格(27) 担当 山川 伊津子(講師) 職位昇格(27) 担当 川添 敏弘(准教授) 職位昇格(27) 担当 堀井 隆行(講師) 職位昇格(27) 専任教員2名で授業運営が可能のため(27) 兼1 担当 山川 伊津子(講師) 職位昇格(27) 担当 堀井 隆行(講師) 職位昇格(27)		
		障害者心理ケア論演習	4後	1				1						
		高齢者心理ケア論	3後	2			0+							
		子(供)どもの発達と心理ケア カウンセリング論	3後 4後 4前	2 2			0+		1					
		ペットロス論	4前	2				1	1	0+				
		動物福祉とボランティア	4前	2			1	0+						
		アニマルアシステッドセラピー論	3前	2			1	1	0+					
		アニマルアシステッドセラピー演習	3後	1				1	1	0+				
		アニマルアシステッドセラピー実習	3後	1				1	1	0+	0			
		アシスタンスドッグ論 アシスタンスドッグ演習	4前 4後	2 1					2	0	2			
		専門教育科目	共通科目群	アッセンブリーアワーⅠ(動物と看護)	1通	1			0+	1	0+			担当授業数均等化のため、担当を専任教員(助教)に変更(26) 担当 大橋 由紀子(助教)(26) 担当 大橋 由紀子(講師) 職位昇格(27) 教育効果を高めるため、専任教員(教授)を追加(26) 担当 武藤 眞(教授)(26) 授業運営上の理由により、担当の変更(26) 担当 西村 信子(講師)(26) 教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員(講師)1名を追加(23) 担当 花田 道子(講師) 平成23年1月 AC教員審査済 判定 可(23) 授業運営上の理由により、専任教員(助教)に変更(26) 担当 鈴木 友子(26) 担当 鈴木 友子(講師) 職位昇格(27) 新規開講科目(26) 担当 二宮 博義(教授) 担当 島森 尚子(准教授) 担当 新島 典子(准教授) 担当 茂木 千恵(講師)(26) 専任教員(教授)退職のため、担当教員を変更 担当 内田 明彦(教授)(27) 担当 島森 尚子(教授) 職位昇格(27)
				アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境) アッセンブリーアワーⅢ(動物と社会)	2通 3通	1 1			1	1	1			
				インターンシップ	3・4前後	1			1	1	0+			
				アドバンストイングリッシュ	3通	2			2+	1	2		1	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目 専門応用科目 共通科目群	卒業論文	4通	6			16 14 13 14 13	4 3 6 5	7 5 3	2 6 5		専任教員（教授）就任辞退により、担当を専任教員（教授）に変更（23） 担当 天野卓（教授） 平成22年9月 AC教員審査済 判定 可（23） および専任教員（教授）追加採用予定（23） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 提出予定（23） 専任教員（教授）新規採用（24） 担当 内田明彦（教授） 平成23年7月 AC教員審査済 判定 可（24） 専任教員（准教授）新規採用（25） 担当 武藤真（准教授） 平成25年1月 AC教員審査済 判定 可（25） 教育効果を高めるため、担当を追加（26） 担当 花田 道子（准教授） 平成25年7月 AC教員審査済 判定 可（26） 担当 林 一彦（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 担当 今村 伸一郎（教授） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 担当 茂木 千恵（講師） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 担当 福山 貴昭（助教） 平成26年1月 AC教員審査済 判定 可（26） 担当 岡 勝巖（講師）（26） 専任教員（教授2名、助教1名）退職のため、新規専任教員（教授2名）を追加 担当 安藤 元一（教授） 担当 富田 幸子（教授） 教育効果を高めるため、担当を追加 担当 石川 牧子（准教授） 担当 宮井 紗弥香（助教） 担当 島森 尚子（教授） 職位昇格 担当 花田 道子（教授） 職位昇格 担当 本田 三緒子（准教授） 職位昇格 担当 川添 敏弘（准教授） 職位昇格 担当 大橋 由紀子（講師） 職位昇格 担当 鈴木 友子（講師） 職位昇格 担当 山川 伊津子（講師） 職位昇格 担当 堀井 隆行（講師） 職位昇格 (27)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成27年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
42	58	0	100	42	63	0	105	
				[-]	[5]	[-]	[5]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	南大沢キャンパス (7,827.88 m ²) 渋谷キャンパス (1,237.08 m ²) 教育環境整備のため、 隣地を購入した。 (24)			
	校舎敷地	8,139.32 m ²	925.64 m ²	1,323.80 m ²	10,388.76 m ²				
	運動場用地	1,065.39 m ²	0 m ²	0 m ²	1,065.39 m ²				
	小 計	9,204.71 m ²	925.64 m ²	1,323.80 m ²	11,454.15 m ²				
	そ の 他	12,540.29 m ² 1,398.71 m ²	0 m ²	0 m ²	12,540.29 m ² 1,398.71 m ²				
	合 計	21,745.00 m ² 10,603.42 m ²	925.64 m ²	1,323.80 m ²	23,994.44 m ² 12,852.86 m ²				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	ヤマザキ動物専門学校 (収容定員:720名、面積 基準1900m ²)と共用 教育環境整備のため、 拡充した校地に管理棟 を設置した (25)				
	9,276.58 m ² 9,181.62 m ²	2,326.91 m ²	3,202.43 m ²	14,805.92 m ² 14,710.96 m ²					
	(9,181.62 m ²)	(2,326.91 m ²)	(3,202.43 m ²)	(14,710.96 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 語学学習施設と情報処 理学習施設の補助職員 は兼任			
	8 室	4 室	18 室	2室 (補助職員 2人)	1室 (補助職員 1人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			大学全体			
	動物看護学部 動物看護学科		33 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学開学までに視聴覚 資料が増加したため。 (22) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料及び標本を増加 した。(23) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料、機械・器具及 び標本を増加した。 (24) 学生の学修環境を改善 するため、図書、学術 雑誌、視聴覚資料及び 機械・器具を増加し た。(25) 学生の学修環境を改善 するため、図書、視聴 覚資料、機械・器具及 び標本を増加した。 (26) 学生の学修環境を改善 するため、図書、学術 雑誌、電子ジャーナ ル、機械・器具及び標 本を増加させた。 (27)	
		[うち外国書]	[うち外国書]						[うち外国書]
	冊	種	種	点	点	点			
	動物看護学部・ 動物看護学科	[3,371] [3,036] [3,005] 33,426 [2,981] (33,620 [3,559]) (33,299 [3,469]) (32,636 [3,371]) (31,524 [3,036]) (30,876 [2,944]) (30,093 [2,648])	185 [50] 66 [30] (189 [52]) (185 [50]) (66 [30])	21 [16] 9 [7] (23 [18]) (21 [16]) (9 [7])	585 493 472 346 336 (616) (620) (585) (493) (472) (346) (336)	9,816 9,482 9,449 (10,439) (9,970) (9,816) (9,482) (9,449)	222 197 179 (258) (232) (222) (197) (179)		
	計	[3,371] [3,036] [3,005] 33,426 [2,981] (33,620 [3,559]) (33,299 [3,469]) (32,636 [3,371]) (31,524 [3,036]) (30,876 [2,944]) (30,093 [2,648])	185 [50] 66 [30] (189 [52]) (185 [50]) (66 [30])	21 [16] 9 [7] (23 [18]) (21 [16]) (9 [7])	585 493 472 346 336 (616) (620) (585) (493) (472) (346) (336)	9,816 9,482 9,449 (10,439) (9,970) (9,816) (9,482) (9,449)	222 197 179 (258) (232) (222) (197) (179)		
	(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	420.00 m ²	64	40,000						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	558.40 m ²	-							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	教育環境の充実を図る ため、設備購入費を増 額。(23)
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	32,000千円	3,000千円	3,000千円	
	共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	137,126千円 133,296千円	119,803千円 104,941千円	3,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,920千円	1,620千円	1,620千円	1,620千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入、資産運用収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	ヤマザキ動物看護短期大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
動物看護学科	3	—	—	—	短期大学士 (動物看護学)	—	平成16年	東京都八王子市 南大沢4-7-2	平成24年10月 廃止認可

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<動物看護学部 動物看護学科>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授(副学長)	山崎 薫 (59)	平成22年4月	イヌの特性論※ アニマルインステッドセラピー論※	専任	教授(学長)	山崎 薫 (62)	平成25年4月		平成25年4月 学長就任 (25)
専任	教授(学部長)	若尾 義人 (65)	平成22年4月	動物看護学概論 動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ インターンシップ 卒業論文	専任	准教授	武藤 真 (65)	平成25年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 卒業論文	平成25年4月 学部長業務増加による負担軽減のため、平成25年度より担当者変更(25) 平成25年1月 AC教員審査済
					専任	教授	若尾 義人 (68)	平成22年4月	動物看護学概論 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ インターンシップ 卒業論文	平成25年4月 学部長業務増加による負担軽減のため、担当科目を削減(25)
専任	教授(学科長)	二宮 博義 (66)	平成22年4月	動物形態学 動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 実験動物学 動物病院実習 卒業論文	専任	准教授	花田 道子 (64)	平成23年4月	動物臨床看護学(基礎)※	平成26年4月 教員負担軽減のため、担当者を変更(26)
					専任	助教	鈴木 友子 (42)	平成23年4月	動物臨床看護学(基礎)実習	平成26年4月 教員負担軽減のため、担当者を変更(26)
					専任(副教務部長)	教授	今村 伸一郎 (55)	平成26年4月	動物形態学 実験動物学 動物病院実習 解剖生理学実習 卒業論文	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当科目を変更 副学部長就任(26) 平成27年3月 二宮 博義 教授 契約期間満了による退任(27)
専任	教授	関 正勝 (71)	平成23年4月	生活と哲学 生命倫理学 卒業論文	兼任(副学長)	講師	関 正勝 (75)	平成26年4月	生活と哲学 生命倫理学	平成26年3月 関 正勝 定年退職 平成26年4月 兼任講師として採用 副学長就任(26)
専任	教授	阿部 又信 (70)	平成22年4月	基礎生化学 小動物栄養学 小動物臨床栄養学 卒業論文	兼任	講師	大島 誠之助 (68)	平成25年4月	小動物栄養学 小動物臨床栄養学	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任教員1名を追加(25) 平成26年3月 阿部 又信 定年退職(26)
					専任	教授	小黒 美枝子 (62)	平成22年4月	基礎生化学	平成26年3月 阿部 又信 定年退職のため、担当者変更(26)
専任	教授	石田 恒雄 (70)	平成22年4月	自然科学 環境科学 基礎化学	兼任	講師	石川 牧子 (38)	平成26年4月	自然科学	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職 新規採用の兼任講師に変更(26) 平成26年10月 竹村哲雄(准教授)就任辞退により、兼任講師から専任教員(准教授)として採用(27)
					専任	准教授	石川 牧子 (39)	平成26年10月	環境科学 基礎化学 卒業論文	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職 平成26年3月 専任教員(准教授)就任辞退「後任未定」 平成26年度後期授業開始前に専任教員採用予定(26) 平成26年10月 竹村哲雄(准教授)就任辞退により、専任(准教授)として採用(27)

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月			
専任	教授	小倉 啓子 (68)	平成22年4月	心理学入門 臨床心理学 高齢者心理ケア論 カウンセリング論※ 卒業論文	兼任	講師	小倉 啓子 (73)	平成27年4月	臨床心理学 高齢者心理ケア論	平成27年3月 小倉 啓子 教授 契約期間満了による退任(27) 兼任講師として採用(27)
					兼任	講師	加藤 理絵 (43)	平成27年4月	心理学入門 カウンセリング論	平成27年3月 小倉 啓子 教授 契約期間満了による退任により、担当者の変更(27)
専任	教授	山田 隆紹 (67)	平成22年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 卒業論文	専任	教授	小方 宗次 (69)	平成22年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※	平成26年3月 山田 隆紹 定年退職のため、担当者変更(26)
					専任	准教授	花田 道子 (64)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)実習※	平成26年3月 山田 隆紹 定年退職のため、担当者変更(26) 平成25年7月 AC教員審査済
専任	教授	川上 静夫 (66)	平成23年10月	動物生態学 動物臨床繁殖学 産業動物学 卒業論文	専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	動物生態学	平成26年3月 川上 静夫 定年退職のため、担当者変更(26) 平成26年1月 AC教員審査済
					兼任	講師	川上 静夫 (70)	平成26年10月	動物臨床繁殖学	平成26年3月 川上 静夫 定年退職のため、平成26年10月 兼任講師として採用(26)
					専任	教授	鎌田 壽彦 (69)	平成22年4月	産業動物学	平成26年3月 川上 静夫 定年退職のため、担当者変更(26)
専任	教授	東條 英昭 (66)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 動物遺伝学 卒業論文	専任	教授	鎌田 壽彦 (65)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 卒業論文	平成22年3月 東條 英昭(教授) 就任辞退による担当者の変更(22)
					兼任	講師	東條 英昭 (67)	平成23年10月	動物遺伝学	平成23年10月 東條 英昭(教授) 就任辞退 兼任講師として採用(23)
					兼任	講師	寺内 聖治 (54)	平成24年10月	動物遺伝学	平成24年10月 東條 英昭(兼任) 就任辞退により担当者の変更(24) 平成27年3月 契約期間満了による退任(27)
					専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	基礎生物学	平成26年4月 教員負担軽減のため、担当科目を変更(26) 平成26年1月 AC教員審査済
専任	教授	堀尾 政博 (60)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 微生物学 寄生虫学 卒業論文	専任	教授	内田 明彦 (64)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 寄生虫学 卒業論文	平成24年3月 堀尾政博(教授) 就任辞退による担当者の変更(24)
					兼任	講師	池田 純子 (52)	平成24年4月	微生物学	
専任	教授	岡崎 登志夫 (59)	平成24年4月	病理学 血液学 動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 卒業論文	専任(副学 科長)	教授	岡崎 登志夫 (63)		平成26年4月 副学部長就任(26)	
専任	教授	小黒 美枝子 (58)	平成22年4月	動物生化学 サイエンスイングリッシュ バイオテクノロジー 卒業論文	専任	教授	小黒 美枝子 (62)	平成22年4月	動物生化学 サイエンスイングリッシュ バイオテクノロジー 卒業論文 基礎生化学	平成26年3月 阿部 又信 定年退職のため、担当科目を追加(26)
専任	教授	谷口 明子 (51)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 小動物放射線学 卒業論文						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	金子 弥生 (44)	平成23年4月	動物行動学 保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	専任	教授(学部長)	天野 卓 (68)	平成25年3月	保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退のため、平成23年度より担当者を変更(23) 平成22年9月 AC教員審査済
					兼任	講師	田中 智夫 (58)	平成23年4月	動物行動学	平成23年3月 金子弥生(教授)就任辞退のため、平成23年度より担当者を兼任講師へ変更(23)
					専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	動物行動学	平成26年4月 田中 智夫(兼任)退任により科目担当者を変更(26) 平成26年1月 AC教員審査済
専任	准教授	會田 保彦 (66)	平成24年10月	動物愛護と関連法規の歴史※ 動物災害・危機管理 動物福祉とボランティア 卒業論文	専任	教授	會田 保彦 (70)		平成26年4月 職位昇格(26)	
専任	准教授	濱田 清吉 (65)	平成24年4月	障害者福祉論 卒業論文	兼任	講師	濱田 清吉 (70)	平成26年4月	障害者福祉論	平成26年3月 濱田 清吉 定年退職 平成26年10月 兼任講師として採用(26) 平成27年3月 契約期間満了による退任(27)
					専任	講師助教	山川 伊津子 (56)	平成26年4月		平成26年10月 教育効果を高めるため、担当者を追加(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
専任	准教授	小方 宗次 (65)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 アセスンリアワーⅠ(動物と看護) 卒業論文	専任	講師助教	大橋 由紀子 (40)	平成26年4月	アセスンリアワーⅠ(動物と看護)	平成26年4月 担当授業数均等化のため、科目担当者変更(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
					専任	教授	小方 宗次 (69)		動物臨床看護学(基礎)※ 動物臨床看護学(基礎)実習 卒業論文 動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※	平成26年3月 山田 隆昭 定年退職のため、担当科目追加(26) 平成26年4月 職位昇格(26)
専任	准教授	島森 尚子 (54)	平成22年4月	文学と人間 イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) コンパニオンバードの特性論※ 卒業論文	専任	教授 准教授	島森 尚子 (59)	平成22年4月	文学と人間 イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) コンパニオンバードの特性論※ 卒業論文 アドバンストイングリッシュ※	平成26年4月 新規開講科目を追加(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
専任	准教授	新島 典子 (42)	平成22年4月	生活と社会 社会調査法 ペットロス論※ アセスンリアワーⅡ(動物と環境) 卒業論文	専任	准教授	新島 典子 (46)	平成22年4月	生活と社会 社会調査法 ペットロス論※ アセスンリアワーⅡ(動物と環境) 卒業論文 アドバンストイングリッシュ※	平成26年4月 新規開講科目を追加(26)
専任	講師	本田 三緒子 (54)	平成22年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物医療機器※ 動物公衆衛生学 アセスンリアワーⅢ(動物と社会) 卒業論文	専任	教授	武藤 眞 (66)	平成25年4月	アセスンリアワーⅢ(動物と社会)※	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当を2名に変更(26)
					専任	講師	西村 信子 (48)	平成24年10月		
					専任	准教授 講師	本田 三緒子 (59)	平成22年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 動物医療機器※ 動物公衆衛生学 卒業論文	平成26年4月 授業運営上の理由により、担当科目を削減(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
専任	講師	岡 勝巖 (45)	平成22年4月	情報リテラン(基礎) 情報リテラン(応用)	専任	講師	岡 勝巖 (49)	平成22年4月	情報リテラン(基礎) 情報リテラン(応用) 卒業論文	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当科目を追加(26)

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月			
専任	講師	西村 信子 (44)	平成24年10月		専任	講師	西村 信子 (48)	平成24年10月	障害者心理ケア論 障害者心理ケア論演習 卒業論文 子(乳)どもの発達と心理ケア アセスブリーアワーⅢ (動物と社会)※	平成26年4月 科目名変更 教育効果を高めるため、担当科目を追加(26)
専任	講師	川添 敏弘 (40)	平成22年4月		専任	准教授	川添 敏弘 (45)			平成26年10月 職位昇格(27)
専任	助教	山川 伊津子 (51)	平成23年4月		専任	講師 助教	山川 伊津子 (56)	平成23年4月	ベトロス論※ アニマルアシテッドセラピー 演習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文	平成26年10月 教育効果を高めるため、担当科目を追加(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
専任	助教	赤羽根 和恵 (46)	平成23年4月	キャリアマネジメント入門 キャリアマネジメント演習 文章作法入門 ペットビジネスマネジメント※ 卒業論文	兼任	講師	原島 恒雄 (60)	平成27年4月	キャリアマネジメント入門 キャリアマネジメント演習	平成27年3月 赤羽根 和恵 助教 辞任により担当者を兼任講師へ変更(27)
					兼任	講師	原 恵子 (51)	平成27年4月	文章作法入門	平成27年3月 赤羽根 和恵 助教 辞任により担当者を兼任講師へ変更(27)
					兼任	講師	前原 晴彦 (48)	平成27年4月	ペットビジネスマネジメント	平成27年3月 赤羽根 和恵 助教 辞任により担当者を兼任講師へ変更(27)
専任	助教	鈴木 友子 (38)	平成23年4月		専任	講師 助教	鈴木 友子 (43)	平成23年4月	動物臨床看護学(内科)実習※ 動物医療機器※ ヒトと動物の共通感染症※ 卒業論文 動物臨床看護学(基礎)実習※ インターンシップ	平成26年4月 教育効果を高めるため、担当科目を変更(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
専任	助教	渡邊 由紀子 (35)	平成22年4月		専任	講師 助教	大橋 由紀子 (40)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用) 卒業論文	平成23年4月より改姓(23) 平成26年4月 担当授業数均等化のため、担当科目を追加(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
専任	助教	堀井 隆行 (30)	平成23年4月		専任	講師 助教	堀井 隆行 (35)		イヌの行動学 イヌの行動学演習 アニマルアシテッドセラピー 実習※ アシスタンスドッグ演習※ 卒業論文	平成26年10月 職位昇格(27)
					専任	教授	鎌田 壽彦 (69)	平成22年4月	基礎生物学 生命科学概論 動物生理学 卒業論文 産業動物学	平成22年3月 東條英昭(教授) 就任辞退による 担当者の採用(22) 平成26年3月 川上 静夫 定年退職により 担当科目追加(26) 平成26年4月 専任教員新規採用のため、担当科目を削減(26)
					専任	教授 (学科長)	天野 卓 (72)	平成25年3月	動物遺伝学 保全生物学 野生動物学 生物統計学 卒業論文	平成23年3月 金子弥生(教授) 就任辞退による 担当者の採用(23) 平成22年9月AC教員審査済 平成26年4月 学科長就任(26) 平成27年4月 教育効果を高めるため、担当科目を変更(27)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					専任	教授	内田 明彦 (68)	平成24年4月	ヒトと動物の共通感染症※ 微生物学 寄生虫学 アドバンストイングリッシュ※ 卒業論文	平成23年7月 教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員(教授)追加採用予定(23) 平成23年7月変更書提出予定 平成27年4月 前任者(二宮 博義 教授)退職の為、担当科目追加(27)
					専任	教授 准教授	武藤 真 (66)	平成25年4月	動物臨床看護学(外科)※ 動物臨床看護学(外科)実習※ 卒業論文 アンゼンプリアワーⅢ (動物と社会)	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、専任教員(准教授)追加採用(25) 平成25年1月 AC教員審査済 平成26年4月 職位昇格及び教育効果を高めるため、担当科目追加(26)
					専任	教授	林 一彦 (66)	平成26年4月	動物形態学 病理学 動物歯科学 動物歯科学実習 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済
					専任 (副教務部長)	教授	今村 伸一郎 (55)	平成26年4月	動物形態学 解剖生理学実習 実験動物学 動物病院実習 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済 教育効果を高めるため、「動物病院実習」を担当に追加(26) 平成27年4月 副教務部長に就任(27)
					専任	講師	茂木 千恵 (37)	平成26年4月	基礎生物学 動物生態学 動物行動学 卒業論文 アドバンストイングリッシュ	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済 教育効果を高めるため、「アドバンストイングリッシュ」を担当に追加
					専任	助教	福山 貴昭 (40)	平成26年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 コンパニオンアニマルケア(グルーミング総合)実習 イヌの特性論※ 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員に新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済
					専任	助教	宮井 紗弥香 (30)	平成26年4月	動物臨床検査学 動物臨床検査学実習 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済 平成27年4月 教育効果を高めるため、担当科目を追加(27)
					専任	教授	安藤 元一 (65)	平成27年4月	生命科学概論 保全生物学 野生動物学 卒業論文	平成27年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(27)
					専任	教授	富田 幸子 (62)	平成27年4月	病理学 動物実理学※ 動物臨床看護学(内科)※ 動物臨床看護学(内科)実習※ 卒業論文	平成27年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(27)
					専任	助教	小山田 洋子 (48)	平成27年4月	動物臨床看護学(基礎)実習※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 動物臨床検査学実習	平成27年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、新規採用(27)

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	岡崎 登志夫 (59)	平成23年10月	病理学	専任 (副学科長)	教授	岡崎 登志夫 (63)	平成24年4月	病理学 血液学 動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※ 卒業論文	平成24年4月 専任教員(教授)として採用 (24) 平成26年4月 副学科長就任(26) 平成27年3月 学科長が業務に習熟したため、副 学科長退任(27)
兼任	講師	矢島 隆志 (65)	平成22年4月	生活と経済						
兼任	講師	斉藤 康介 (59)	平成23年4月	芸術と表現						
兼任	講師	渋谷 寛 (50)	平成22年4月	生活と法律 動物愛護と関連法規の歴史※						
兼任	講師	米金 孝雄 (48)	平成22年10月	フランス語入門						
兼任	講師	早川 洋子 (44)	平成23年4月	健康とスポーツ 健康とスポーツ実技	兼任	講師	中山 多美 (49)	平成25年4月	健康とスポーツ	平成25年3月 早川洋子(兼任)就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	中山 多美 (49) 足立 晃子 (44)	平成25年10月	健康とスポーツ実技	平成25年3月 早川洋子(兼任)就任辞退により 科目担当者を変更(25) 平成26年10月 足立 晃子(兼任)退任により科 目担当者を変更(26)
兼任	講師	加藤 剛 (36)	平成22年4月	イングリッシュスキルズ(基礎) イングリッシュスキルズ(応用)						
兼任	講師	早田 由貴子 (60)	平成22年4月	コンパニオンアニマルケア(グ ルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グ ルーミング基礎)実習※ ネコの特性論						
兼任	講師	山崎 恵子 (56)	平成24年4月	アニマルアシストセラピー 論※						
兼任	講師	尾崎 明恵 (55)	平成23年10月	動物薬理学 動物臨床看護学(外科)実習※	兼任	講師	尾崎 明恵 (58)	平成23年10月	動物薬理学※ 動物臨床看護学(外科)実習 ※ 動物臨床看護学(基礎)実習 ※	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実を 図るため、担当科目を追加(25) 平成27年4月 教育課程の充実を図るため、動物 薬理学の担当者に専任教員(富田 幸子 教授)を追加(27)
兼任	講師	潮見 泰蔵 (54)	平成24年4月	リハビリテーション論	兼任	講師	吉井 智晴 (51)	平成27年4月	リハビリテーション論	平成27年4月 潮見 泰蔵(兼任)契約期間満了 による辞任により、科目担当者 を変更(27)
兼任	講師	山本 央子 (51)	平成25年4月	コンパニオンドッグトレーニ ング						
兼任	講師	安藤 孝敏 (50)	平成23年4月	動物人間関係学						
兼任	講師	井上 留美 (44)	平成25年4月	動物リハビリテーション						
兼任	講師	高柳 友子 (43)	平成25年4月	アシスタンスドッグ論						
兼任	講師	前原 晴彦 (44)	平成25年4月	ペットビジネスマネジメント※	兼任	講師	前原 晴彦 (44)	平成25年4月	ペットビジネスマネジメン ト	平成27年3月 赤羽根 和恵 助 教 辞任により、科目担当者を一 人に変更(27)
兼任	講師	菅野 晶子 (38)	平成24年4月	動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習※ 動物臨床検査学実習※	兼任	講師	菅野 晶子 (38)	平成24年4月	動物臨床看護学(総合)※ 動物臨床看護学(総合)実習 ※	平成27年4月 教育効果を高めるため、動物臨床 検査学実習の担当を専任教員(小 山田 洋子 助教)に変更(27)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	小嶋 篤史 (36)	平成25年4月	コンパニオンパードの特性論※						
兼任	講師	福山 貴昭 (36)	平成22年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 コンパニオンアニマルケア(グルーミング総合)実習 イヌの特性論※	専任	助教	福山 貴昭 (40)	平成26年4月	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング基礎)実習※ コンパニオンアニマルケア(グルーミング応用)実習 コンパニオンアニマルケア(グルーミング総合)実習 イヌの特性論※ 卒業論文	平成26年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員に新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済
兼任	講師	八木原 怜子 (33)	平成24年4月	動物臨床検査学※ 動物臨床検査学実習※	兼任	講師	八木原 怜子 (37)	平成24年4月	動物臨床検査学※	平成26年4月 専任教員(助教)新規採用のため、担当科目を削減(26) 平成27年4月 宮井紗弥香(助教)就任のため、退任(27)
兼任	講師	秋元 弘子 (52)	平成24年4月	社会福祉論						
兼任	講師	齋藤 知子 (43)	平成24年10月	児童福祉論	兼任	講師	宮武 正明 (68)	平成25年10月	児童福祉論	平成25年3月 齋藤知子(兼任)就任辞退により科目担当者を変更(25)
兼任	講師	大谷 伸代 (42)	平成23年10月	解剖生理学実習※	兼任	講師	須藤 大輔 (32)	平成24年10月	解剖生理学実習※	平成24年3月 大谷伸代(兼任)就任辞退により科目担当者を変更(24)
					兼任	講師	高柳 信子 (39)	平成25年10月	解剖生理学実習※	平成25年3月 須藤大輔(兼任)就任辞退により科目担当者を変更(25)
					専任(副学部長)	教授	二宮 博義 (70)		解剖生理学実習※	平成26年4月 教育効果を高めるため、専任教員(教授)を追加(26)
兼任	講師	杉浦 陽介 (33)	平成23年10月	解剖生理学実習※	専任(副学部長)	教授	今村 伸一郎 (55)	平成26年4月	解剖生理学実習※	平成26年3月 杉浦 陽介(兼任)退任により科目担当者を新規採用(26) 平成26年1月 AC教員審査済
兼任	講師	岡藤 円春 (27)	平成25年4月	カウンセリング論※	兼任	兼任	坂牧 円春 (30)	平成25年4月	カウンセリング論※	平成25年4月より改姓(25) 平成27年3月 契約期間満了による辞任(27)
					兼任	兼任	加藤 理絵 (43)	平成27年4月	カウンセリング論※	平成27年3月 契約期間満了による辞任により、担当者を加藤 理絵(兼任)に変更(27)
兼任	講師	花田 道子 (60)	平成22年4月	動物臨床看護学(基礎)実習	専任	教授 准教授 講師	花田 道子 (65)	平成25年10月	動物臨床看護学(基礎)実習 動物病院実習 インターネット 動物臨床看護学(基礎) 動物臨床看護学(内科)実習 卒業論文	平成23年4月 教員組織および教育課程の充実を図るため、兼任講師から専任教員(講師)として新規採用(23) 平成23年1月 AC教員審査済 平成25年10月 職位昇格 平成25年7月 AC教員審査済 平成26年4月 負担軽減のため、担当科目削減 教育効果を高めるため、担当科目追加(26) 平成26年10月 職位昇格(27)
					兼任	講師	東條 英昭 (66)	平成23年10月	動物遺伝学	平成22年3月 東條英昭(教授)就任辞退による兼任への変更(22) 平成24年3月 東條英昭(兼任)就任辞退(24)

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	田中 智夫 (58)	平成23年4月	動物行動学	平成23年3月 金子弥生(教授) 就任辞退により 科目担当者を変更(23) 平成26年3月 田中 智夫(兼任) 就任辞退 (26)
					兼任	講師	池田 純子 (52)	平成24年4月	微生物学	平成24年3月 堀尾政博(教授) 就任辞退により 科目担当者を変更(24)
					兼任	講師	須藤 大輔 (32)	平成24年10月	解剖生理学実習	平成24年3月 大谷伸代(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(24) 平成25年3月 須藤大輔(兼任) 就任辞退(25)
					兼任	講師	寺内 聖治 (54)	平成24年10月	動物遺伝学	平成24年3月 東條英昭(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(24) 平成27年3月 契約期間満了による辞任(27)
					兼任	講師	大島 誠之助 (68)	平成25年4月	小動物栄養学 小動物臨床栄養学	平成25年4月 教員組織および教育課程の充実を 図るため、兼任教員1名を追加 (25)
					兼任	講師	中山 多美 (49)	平成25年4月	健康とスポーツ 健康とスポーツ実技	平成25年3月 早川洋子(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	足立 晃子 (44)	平成25年10月	健康とスポーツ実技	平成25年3月 早川洋子(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25) 平成26年3月 足立 晃子(兼任) 退任(26)
					兼任	講師	宮武 正明 (68)	平成25年10月	児童福祉論	平成25年3月 齋藤知子(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	高柳 信子 (39)	平成25年10月	解剖生理学実習※	平成25年3月 須藤大輔(兼任) 就任辞退により 科目担当者を変更(25)
					兼任	講師	仁科 邦男 (66)	平成26年10月	動物とジャーナリズム	平成26年10月 新規開講科目のため、新規採用 (26)
兼任	講師	石川 牧子 (38)	平成26年4月	自然科学	専任	准教授	石川 牧子 (39)	平成26年10月	自然科学	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職 新規採用の兼任講師に変更(26) 平成26年10月 竹村哲雄(准教授) 就任辞退によ り、兼任講師から専任教員(准教 授)として採用(27)
								平成26年10月	環境科学 基礎化学 卒業論文	平成26年3月 石田 恒雄 定年退職 平成26年3月 専任教員(准教授) 就任辞退 「後任未定」 平成26年度後期授業開始前に専任 教員採用予定(26) 平成26年10月 竹村哲雄(准教授) 就任辞退によ り、専任(准教授)として採用 (27)

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
					兼任	講師	白川 理恵 (45)	平成26年10月	フランス語入門	平成26年10月 教育効果を高めるため、新規採用 (26)
					兼任	講師	岡 浩一郎 (44)	平成26年10月	ジェロントロジーとドッグ ウォーキング	平成26年10月 新規開講科目のため、新規採用 (26)
					兼任	講師	山羽 教文 (42)	平成26年10月	ジェロントロジーとドッグ ウォーキング	平成26年10月 新規開講科目のため、新規採用 (26)
					兼任	講師	小倉 啓子 (73)	平成27年4月	臨床心理学 高齢者心理ケア論	平成27年3月 小倉 啓子 教授 契約期間満了 による退任 (27) 兼任講師として採用 (27)
					兼任	講師	原島 恒雄 (60)	平成27年4月	キャリアマネジメント入門 キャリアマネジメント演習	平成27年3月 赤羽根 和恵 助 教 辞任により担当者を兼任講師へ変 更 (27)
					兼任	講師	原 恵子 (51)	平成27年4月	文章作法入門	平成27年3月 赤羽根 和恵 助 教 辞任により担当者を兼任講師へ変 更 (27)
					兼任	講師	吉井 智晴 (51)	平成27年4月	リハビリテーション論	平成27年3月 潮見 泰蔵 (兼任) 契約期間満了 による辞任により、科目担当者を 変更 (27)
					兼任	兼任	加藤 理絵 (43)	平成27年4月	心理学入門 カウンセリング論※	平成27年3月 小倉 啓子 教授 契約期間満了 による退任により、担当者を変更 (27)

(注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の年齢	定年を延長している教員数	定年規定の年齢	定年を延長している教員数
15	5	4	5	29	18	4	7	3	32	65	9	65	10
(9)	(3)	(3)	(1)	(16)	[3]	[△1]	[3]	[△2]	[3]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	教授	東條 英昭	一身上の都合による就任辞退(22)
2	教授	金子 弥生	一身上の都合による就任辞退(23)
3	教授	堀尾 政博	一身上の都合による就任辞退(24)
4	准教授	竹村 哲雄	一身上の都合による就任辞退(26)

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任(就任辞退を含む)等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。(22)
当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。(23)
当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。(24)
当該教員の就任辞退は、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。(25)
当該教員の就任辞退は、前期開講科目に関しては、授業開講前に代替教員を採用したことで、学生の学修への影響はほぼ無いと判断している。また、後期開講科目に関しては、授業開始前に専任教員を採用予定である。学生には、授業開講前であるため、シラバスの配付をもって周知する。(26)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時</p> <p>(平成21年10月)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p> <p>・動物看護学に関する教育研究を向上させる観点から、動物実験が必要となることも十分に考えられるため、それを学内でも実施できるよう環境作りに努めること。</p>	<p>留意事項</p> <p>留意事項</p>	<p>・開学時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行い、その水準を一層向上させるように、各種委員会を立ち上げ、努力をしている。研究に関しては、「年間計画書」を提示するとともに、個人研究・共同研究を推進する体制作りを行っている。教育に関しては、学生による授業評価アンケートの実施等の検討をしている。このように大学組織全体として、継続的に取り組むところである。(22)</p> <p>・4年間の学修の集大成となる卒業論文指導を充実させるため、平成22年度から「研究委員会」を開催し、具体的な卒業論文実施計画案を策定し、計画案にそって準備を重ねている。(23)</p> <p>・動物実験に関する検討は、「研究委員会」「DNA実験安全委員会」を立ち上げるとともに、動物看護学に関する教育研究を向上させるよう手法及び環境作りを検討しているところである。(22)</p> <p>・平成22年度は「DNA実験安全委員会」にて、組換えDNA実験安全管理規程にそった実験計画を策定し、準備を重ねている。平成23年度においても引き続き検討を重ねる。(23)</p> <p>・平成23年度においても「DNA実験安全委員会」にて実験計画の検討を重ねるとともに、災害時の対応等についても話し合いを行った。(24)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成23年2月)</p>	<p>該当なし</p>		
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成24年3月)</p>	<p>該当なし</p>		
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成25年3月)</p>	<p>該当なし</p>		

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成27年3月)	<ul style="list-style-type: none"> 動物看護学部動物看護学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。 	改善意見	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年3月には専任教員3名（73歳、71歳、50歳）が退職し、平成27年4月には専任教員3名（65歳、62歳、48歳）を採用した。（27） 平成28年3月には、専任教員3名（71歳、71歳、50歳）が退職し、平成28年4月には専任教員4名（65歳、43歳、30歳、30歳）を採用する予定である。また、平成29年3月には専任教員2名（75歳、69歳）、平成30年3月には専任教員2名（75歳、74歳）が退職予定である。開学後の年数が短い本学においては、授業科目の内容について十分な引き継ぎがなされる体制を重視し、学生への教育効果を低下させないために必要な措置を取る。平成28年度までの専任教員の年齢構成は別表のとおりとなる予定である。本学は、動物看護学という特殊な新しい分野の学部であり、余人をもって代え難い場合があることはやむを得ないが、今後定年規程を遵守する。また、今後准教授の教授への昇格、講師及び助教の准教授への昇格にはなお数年を要する予定であるが、若手教員の育成に努め、バランスのよい年齢構成の教員組織編成に努めることとする。（27）

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

専任教員の年齢構成（平成27年3月～平成28年4月）

別表

	職位	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
平成27年3月	教授			3	3	4	8	18	
	准教授	1	2	1				4	
	講師	2	3	2				7	
	助教	1	1	1				3	
	合計	4	6	7	3	4	8	32	
平成27年4月	教授			3	4	5	6	18	
	准教授	1	2	1				4	
	講師	2	3	2				7	
	助教	1	2					3	
	合計	4	7	6	4	5	6	32	
平成28年4月	教授			3	2	8	4	17	
	准教授		4		1			5	
	講師	2	2	2				6	
	助教	3	2					5	
	合計	5	8	5	3	8	4	33	

7 その他全般的事項

<動物看護学部 動物看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① アッセンブリーアワー等について</p> <p>② 図書等の資料及び図書館の整備計画 渋谷キャンパス：14,576冊 南大沢キャンパス：15,517冊</p> <p>③ 専修学校施設との共用</p> <p>学則</p> <p>④ 学則の組織について</p> <p>⑤ 学則の休業日について 休業日 土曜日、日曜日</p> <p>⑥ 教育課程について</p> <p>⑦ 修業年限を超えて在学するものの学費等について</p>	<p>① アッセンブリーアワーの運営について 担当教員の授業負担に鑑み、4分割から2分割にした演習形式とし、柔軟に対応できるような科目運営体制とする。 なお、隔週授業の為、学生に混乱を与えないよう連絡や掲示等をしていくこととする。</p> <p>② 学生の学修環境を改善するため、1年次のカリキュラムに一層即した蔵書となるよう見直しを実施し、渋谷キャンパスの蔵書数を14,576冊、南大沢キャンパスの蔵書数を15,517冊とした。(22)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を14,927冊、南大沢キャンパスの蔵書数を15,949冊とした。(23)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,171冊、南大沢キャンパスの蔵書数を16,353冊とした。(24)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,174冊、南大沢キャンパスの蔵書数を17,462冊とした。(25)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,394冊、南大沢キャンパスの蔵書数を17,905冊とした。(26)</p> <p>学生の学修環境の充実を図るため、渋谷キャンパスの蔵書数を15,576冊、南大沢キャンパスの蔵書数を18,044冊とした。 オンライン辞書による検索サービス、電子ジャーナルのほか、データベースとして、CiNii(NII論文情報ナビデータ)、雑誌記事索引集成データベース、聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞記事データベース)等を提供している。(27)</p> <p>③ 大学渋谷1号館については、大学が使用しない曜日と時間帯を限定した上で実習室を共用としている。 その他の施設に関しては、必要に応じて施設利用申請許可で施設貸しを実施している。</p> <p>④ 事務部を事務局とし、2キャンパスにおいて相互に連携をとって学生支援が可能となるよう組織を編成した。</p> <p>さらなる学修環境向上のため、教員組織の検証を行い、副学部長及び副学科長を置くこととした。(26)</p> <p>学長補佐体制充実のため、学事顧問を置くこととした。なお、副学科長は学科長が業務に習熟したため、平成27年度は置かないこととした。(27)</p> <p>⑤ 休業日を日曜日のみとし、講義等の事前事後指導時間を確保し、学生にとってより良い履修計画を実施出来るよう変更した。(26)</p> <p>授業回数を確保する等のため、学期と休業日を当該年度の学年歴において定めることとした。(27)</p> <p>⑥ コンパニオンアニマルを取り巻く社会環境に鑑み、時代の要請に対応するため、カリキュラムについて検討を重ね、教養教育科目に、動物に関する人の価値観、考え方を時代、民族、地域等様々な観点から考察する科目として「動物ジャーナリズム」を配置し、専門教育科目に、歯科疾患や口腔疾患への理解及び予防のための理論と実習からなる「動物歯科学」、「動物歯科学実習」を置くこととした。 更に、高齢社会におけるわが国の様々な健康課題に対応すべく「ジェロントロジーとドッグウォーキング」を新たに配置した。 なお、本学の英語教育における学力向上のため、英語学習傾向試験の結果を踏まえ、「イングリッシュスキルズ(基礎)」及び「イングリッシュスキルズ(応用)」について、「イングリッシュスキルズ(基礎)A～H」及び「イングリッシュスキルズ(応用)A～H」に科目名を変更した。加えて、英語文献講読力を身につけることを目的に、専門応用科目に「アドバンストイングリッシュ」を新たに配置することとした。(26)</p> <p>⑦ 修業年限を超えて在学する者の学費等については、在学生との均衡に配慮しつつ、学生の負担軽減を図る観点から第45条の規定とは別に定めることとした。(26)</p>

<p>⑧ 学校教育法等の一部改正に伴う変更について</p> <p>学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）の一部改正に伴う変更について</p> <p>シラバス</p> <p>⑧ 評価方法の表記について</p>	<p>⑧ 学校教育法の一部改正に伴い、副学長の職務（第92条第4項関係）及び教授会の役割の明確化（第93条関係）を行った。（27）</p> <p>学生に対する懲戒の手続の策定（第26条第5項関係）及び、学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業（第144条関係）について変更を行った。（27）</p> <p>⑧ 「評価方法（評価基準を含む）」の記述を、学生にわかりやすく混乱のないようにするため語句を「出席」、「授業への参加度」、「出席状況」から「授業への参加度」に変更した。（24）</p>
--	--

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>ヤマザキ学園大学FD委員会規程</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 ヤマザキ学園大学（以下「本学」という。）学則第4条の規定に基づき、本学教員は、動物愛護の精神と豊かな人間性を基盤として、広い知識と専門の学芸を深く教育・研究することを任務とし、質的向上の推進並びに教育方法の改善等を見直し、本学の教育充実をいっそう図るため、FD（Faculty Development）委員会（以下「委員会」という。）規程を定める。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第2条 委員会は、前条の目的に資するため、次の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員の質的向上の推進について (2) 教員の授業改善、見直しについて (3) 教員の教育技術の向上について (4) 学生による授業評価等について (5) 教員の学会等を始め、学内外諸団体等の研修の参加等について (6) その他、学長の諮問について <p>(構成)</p> <p>第3条 委員会は、次の委員をもって、構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学部長 (2) 専任教員の中から学長が指名する者 <p>(任期)</p> <p>第4条 委員の任期は、役職者はその在職期間とする。その他の委員は2年とし、再任を妨げない。</p> <p>2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(委員長)</p> <p>第5条 委員会に委員長を置き、学部長とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。 3 委員会に、委員長が指名する副委員長を置く。 <p>(会議)</p> <p>第6条 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 学修総合委員会の要請、その他必要に応じ、開催する。 3 委員会は必要に応じ、教職員をその都度出席させることができる。 <p>(議事録)</p> <p>第7条 事務担当者は、委員会の議事録を作成し、保存するとともに、必要に応じ、学修総合委員会及び教授会に報告しなければならない。</p> <p>(事務)</p> <p>第8条 委員会の事務は、事務局教務・学生課において行う。</p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第9条 この規程の改正及び廃止は、教授会の議を経て学長が定める。</p> <p>附 則</p> <p>この規程は、平成22年4月1日から制定施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この規程は、平成25年4月1日から改正施行する。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年度は1回開催した。 第1回：平成26年5月15日（出席4人、委任3人、欠席1人） ・ 学部長を委員長とし、教員から選出される委員と担当事務職員の9名にて委員会を開催。 委員会開催は、委員の過半数以上の出席をもって成立とし、毎回、開催要件を満たしている。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の教員評価について（授業評価アンケートの実施、集計結果の分析、今後のアンケート対応について、発展的な活用および事務処理の効率化等について） ・ 研究業績に関する情報公開について ・ FD関連の情報収集及び提供について ・ FDに係る研修会及び講習会の実施について ・ 初年次教育のゼミ等の開催等、教育環境の充実について
--

② 実施状況 ※実施されている取組を全て記載すること。

a 実施内容

- ・ 教育研究にかかわる研修
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
- ・ カリキュラムの改善
- ・ シラバスに関連する対応
- ・ 授業評価
- ・ FD関連の情報収集と周知
- ・ FDに関する研修
- ・ 初年次教育のゼミ等の開催

b 実施方法

- ・ FD委員会において、各取組方法を検討し、授業評価アンケートを実施している。実施後は結果をまとめ、教員全員が出席する専任教員連絡会等を通して公表している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 教育研究にかかわる研修
新しい学問分野である動物看護学、動物看護学教育について、教育上の目的や養成する人材像について考えを統一しておく必要があるとの観点から、研修会を開催し、意思統一を図っている。
- ・ 授業科目の教育目標の周知・徹底
コース会議等を行い、授業担当者が内容について十分に話し合い、他の授業科目との関連（授業内容及び授業範囲）について、連携を踏まえながら、教育目標の周知・徹底について取り組んでいる。
- ・ カリキュラムの改善
教育内容の向上を図るために、学生による授業評価と教員による自己評価、動物看護を巡る国内外の教育研究の動向を考慮したカリキュラムの改善を目指し、カリキュラムに多少の修正を加えながら授業を実施している。
- ・ シラバスに関連する対応
シラバスの内容の充実・改善を図るため、FD委員会にて、成績評価基準について検討を行なっている。
- ・ 授業評価
学期の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを行い、結果を科目個別、講義科目全体、実習科目全体で集計し、全体と比較した。また、授業の改善資料として、科目個別集計結果は、担当教員に配布している。
- ・ FD関連の情報収集と周知
FD委員会にて、他大学のFD関連活動の取り組みを取り上げ、議論している。
- ・ FDに関する研修
FDに関する研修の一環として、大学設置基準改正による業績の情報公開に伴い個人研究・業績のとりまとめの必要性から、学内において教員対象研究業績管理システムの勉強会を開催している。
また、FD委員会主催で本学教職員を対象とした講演会を平成25年9月17日および10月7日に開催した。
- ・ 初年次教育のゼミ等の開催
各教員が希望学生を対象に能動的に参加できるプログラムを用意し、「主体的な学び」が出来るようにゼミ等を開催している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ FDに関する研修
FDに関する研修への参加とその報告（学内講演会）を以下のとおり実施した。

①第4回新任職員研修セミナー

日時：平成26年9月1日（月）～9月3日（水）2泊3日

場所：八王子セミナーハウス（東京都八王子市下柚木1987-1）

主催：公益財団法人 大学セミナーハウス

参加者：助教 福山 貴昭

内容：グループ討論：学生授業アンケートを授業改善に活かす、大学教員に必要な資質とは等

シンポジウム：現代大学教育論

電気通信大学における専門教育としてのキャリア教育実践例等

講演：学術の創造、継承そして公共性を担う大学—大学教育の質保証—

その他、パネルディスカッション

他大学・他分野の教員との交流を通して、大学教員にふさわしい教育方法を構築するためのヒントを得られた。

また、学生による授業評価アンケートの結果を授業改善に活かす方策などを検証することができた。

②大学FD学習会2014

日時：平成26年10月31日

場所：山王健保会館

参加者：講師 岡 勝彦

内容：(1)東洋大学全学統一授業アンケートシステムについて

(2)G-PLATSコンピテンシー・ファカルティによる能力開発FDの実践

(3)アクティブラーニングのFuture Design

FD推進のための授業評価事例や、Active Learningを取り入れた授業実践とその評価等の成果について研修を受けた。他大学が実践している取組について相互共有することが出来、活発に意見交換を行えた。

③大学・高校実践ソリューションセミナー 2014

平成26年11月5日（水）～11月6日（木）

場所：東京会場（株）内田洋行新川本社

参加者：教授 小黑 美枝子 教授 島森 尚子

内容：(1)東大MOOC（東大ムーヴ）事例報告

(2)大学におけるアクティブラーニングの活用事例と問題点

近年、教育機関を取り巻く環境が変化していることを受け、大規模公開オンライン講座「東大MOOC」の先進事例と現状をはじめ、アクティブラーニングの質保証に向けての研修を受けた。教育現場の変化に対して、他大学等が実践している取組について様々な角度から検証することが出来た。

④平成26年度 ヤマザキ学園大学 FD研修報告・勉強会（学内講演会）

日時：平成26年12月18日（木）16：30-18：00

場所：本学 南大沢キャンパス内

参加者：教職員50名

内容：(1)大学におけるアクティブラーニングの活用事例と問題点等 発表者：教授 小黑 美枝子 教授 島森 尚子

(2)FD推進のための授業評価事例～その取組みと改善効果～ 発表者：助教 福山 貴昭

多くの本学教職員が参加し、あらためてFD活動の意義、重要性が理解され、意識改革がなされた。

⑤第1回 ヤマザキ学園大学の教育研究体制の再考

平成26年12月24日(水) 10:00~17:00

場所: 本学 南大沢キャンパス内

参加者: 教職員60名程度

- 内容: (1)開学 5年を振り返って~課題と展望~
(2)教育と学生指導
(3)研究活動の推進と充実
(4)教授会・委員会と事務書式の協力体制
(5)中長期構想
(6)第三者評価に向けて

学長を中心に今後の中長期及び将来展望を教職員が共有し、現状維持的な発想ではなく、将来へ向けた教育体制構築に従事することの確固たる意思統一を図ることができた。

⑥第2回 ヤマザキ学園大学の教育研究体制の再考

平成27年1月8日(木) 10:00~17:00

場所: 本学 南大沢キャンパス内

参加者: 教職員60名程度

- 内容: (1)リメディアル教育、初年次教育、教養教育の在り方
(2)学友会、同窓会大学部会、大学後援会について
(3)学年歴、履修登録科目の単位修得率について
(4)入学試験について
(5)第三者評価及びポートレートについて
(6)動物看護学教育のあり方とカリキュラム改正について

「グローバル化」や「アクティブ・ラーニング」など、教育機関を取り巻く環境の大きな変化にどのように対応していくべきか、本学の教育研究の在り方から、入学試験に至る細部まで意見交換を行い、教育の質担保について検証を行った。

⑦研究機関における公的研究費の管理・監査について

日時: 平成27年3月11日(水) 16:30-18:00

場所: 本学 南大沢キャンパス内

講師: 文部科学省 研究振興局学術研究助成課 課長補佐 鈴木 慰人

参加者: 教職員70名程度

- 内容: (1)研究費の不正使用、研究活動における不正行為とは
(2)研究費の不正使用の防止に関する取組
(「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正 等
(3)研究活動における不正行為の防止に関する取組
(4)研究費の不正使用、研究活動における不正行為に関する相談窓口

研究費執行にあたって倫理観の重要性、不正行為の防止に関する取組に教職員一体となつての意識改革等、あらためて研究費に対する理解の重要性が周知され、意識改革へと繋がった。また今後、倫理教育の醸成が求められることを確認した。

- ・ 授業評価アンケート
授業評価アンケートを半期毎に実施、全体集計結果に対する科目毎の結果をレーダーチャートにし、各教員へ通知した。これを受けて各教員は学生からの要望等を取り纏め、授業改善に繋がるよう努力している。また、各教員からFD委員長に、授業改善等の報告書を提出することとした。
- ・ 教員相互の授業見学等
教員相互の授業見学を推進すること、アクティブラーニングについて検討することが協議された。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 年2回 学期(前期、後期)の最終授業時に各科目の授業評価アンケートを実施。

b 教員や学生への公開状況, 方法等

- ・ 事前に学生へ授業評価する意味やその重要性について教授したうえで、アンケートを実施した。その後、アンケートの全体集計結果に対する科目毎の結果をレーダーチャートにして各教員へ通知し、学長から授業の実施方法や結果の活用方法などについて検討を指示し、授業評価アンケートに対する改善報告書の提出を求めた。また、学生には科目毎の評価結果をレーダーチャートにし帳票として取り纏め、図書館にて公表した。併せて、各科目の初回授業にて、科目担当教員から改善内容を口頭あるいは書面等で通知することとした。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学としての全般にわたる自己点検・評価は、学部長が中心となる自己点検・評価委員会によって、専任教員や事務部に対し、自己点検・評価の重要性及び、調査や資料収集の意義を説明する場を設けるなどし、十分な意思の疎通を図り実施体制を築く。各自が自己点検・評価の意義を理解し、改善すべき点を分析し努力していくことになる。

開学にあわせ「ヤマザキ学園大学自己点検・評価委員会設置について」及び「ヤマザキ学園大学自己点検・評価委員会規程」に基づき、平成25年度は自己点検・評価報告書作成の進捗状況等について、平成25年9月30日に委員会を開催した。

- ・学長を委員長とし、教員から選出される委員と担当事務職員の14名にて委員会を開催。
委員会開催は、委員の過半数以上の出席をもって成立とする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成27年10月 公表予定

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関に配布予定
- ・大学ホームページ上に公開予定（平成27年10月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成28年度に評価機関（財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受審

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (2010年6月15日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク (承諾する 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス

(<http://www.yamazaki.ac.jp/jigyo/img/pdf/rikou2014.pdf>)